

## 大日岳・荒島岳（積雪登山）山行報告

【日程】2015年3月7日～3月8日

【メンバー】K岡、I田、Y尾、I藤

【報告】I藤

### 《ルート／タイム》

3/7（土）：高の原発（6：00）～ダイナランドスキー場（10：10）～  
登山開始（10：40）～大日岳（12：15/12：20）～ダイナランド  
（14：20）～檜山荘（16：00） 行動時間：3時間40

3/8（日）：檜山荘発（6：00）～勝原（8：00）～シャクナゲ平（10：15/10：30）～  
荒島岳（11：50/12：05）～シャクナゲ平（12：50/13：20）～登山口（14：30）  
行動時間：6時間30分



### 《報告》

入会した当時から奥美濃から福井北部の山によく同行した。それから、大日岳と荒島岳登山が冬季の定番山行のようになっていた。今までは12月～2月の山行であったが、今回は初めて3月上旬ということで、新雪が少なく歩きやすい上、天候にも恵まれた。それに荒島岳の登山者が50～60名、特に山ガールを含めて若いグループの登山者が多かったことなどが印象的です。

初日、名神高速道を走っているとフロントガラスに雨がポツリポツリ降り出した。雨が降り出すと概ね山行は中止になっていたが、久しぶりの遠出だったせいとお互いに気遣って誰もそのことを言

葉に出さなかった。多分雨が強くなれば今夜の山荘に直行することになると内心みんなが思っていたのかもしれない。

登山口のスキー場に到着したが、まだ雨は降っている。しかし、男性達は私の期待に反して出発準備をしている。「なんで？」と心の葛藤を振り払い出発した。リフト券を手に持ち、一番長いαライナーで一気に稜線近くまで上がる。

すぐにスノーシューを装着し、稜線の急登を

登りだす。いつもは、最後尾で自分のペースで歩くK氏が先頭を歩きだす。ほとんど風はないが小雨交じりのみぞれだった。ガスが掛かり視界が悪くなってきた。スローペースではあるが頂上まで休憩もとらずに登って行った。歩行時間約1時間30分、今までにない最短登頂時間である。

ホワイトアウトに近いような瞬間も数回あり、全く景色も見えないまま黙々と歩いたが、雪面がしっかりしていたのでスノーシューは快適だった。

頂上にある大日如来を祀った石像や方位盤などは跡形もなく雪に埋もれ、濃いガスで何処が頂上かがわからないまま集合写真を撮り下山となった。

下山後、アルコール類とフルーツなどを仕入れて檜山荘に直行する。ウイングヒルスキー場の駐車場に着いて2m近くある残雪にびっくりした。山荘まで辿りつけるか、帰奈良になるのか不安になったが、心配は取り越し苦労だった。



ダイナランドスキー場



温かいストーブを囲んで

スムーズに山荘に着くと二階の軒下まで雪がいっぱいだった。きっと雪おろしの跡だったのだろう。

山荘に入り、K氏とI氏が発電機を起動している間、Yさんと二人で小枝や段ボール片に火をつけ薪ストーブを焚いた。そして赤々と燃えるストーブを囲みながらYさんが準備して下さった美味しいすき焼きに舌鼓を打ち、薪のパチパチ燃える心地よい音を聞きながら楽しいひと時を過ごした。

二日目は山荘を6時に出発し、大野市の勝原まで移動。旧勝原スキー場の駐車場に着いてびっくり。時間的には少し遅かったが駐車場は、約30数台の登山者の車でいっぱいだった。1月～2月のころには多くて10数台位で、駐車場の真ん中でテントを張るほど余裕があったのに。

ゲレンデの長いスロープに登山者が歩いているのが見える。この長いスロープを歩きゲレンデの上部まで時間にして約 40 分位だが単調な為、しんどく感じる。

今日は多分 50~60 名以上の登山者が入っているのだろう。ルートは踏み固められ、急登部は階段状にステップが出来ていたの歩きやすい。しかし、空模様は今一で太陽は見えガスの覆われている。シ



中荒島岳の稜線 (シャクナゲ平より)

ャクナゲ平までは大きなブナ林が点在していて春の訪れを感じさせてくれた。多くの登山者と前後しながらシャクナゲ平に着く。アイゼンを装着し、使わなかったワカンと片方のストックを木陰にデポしてピッケルとストックでここから核心部に入る。このコース最大の急登にさしかかるが、先登登山者のステップを辿りながらラッセルなどの苦労もなく進む。暫くすると稜線になり上部が明るく太陽の光が感じられるようになった。丁度、中荒島岳のピークに出るとガスが一気に晴れ、前方に荒島岳のピ

ークに続く稜線が目に入ってきた。

真っ青な空、稜線の左側が大きな雪庇で切れ込んで、真白な雪面が頂上へ続いている。誰もが感動して足を止めて息をのむ瞬間だ。本当に、素晴らし光景という言葉しか思い浮かばない。日本の山とは思えない雄大な景色である。この光景の中を一步ずつ歩いて登るのかと思うと嬉しくて胸が熱くなってきた。北側の遥か向こうに白山連峰が雲海の上に浮かんでいる。雲海で下界の景色は見えないが六呂師スキー場の辺りに経ヶ岳、赤兎山、大長山が。更に東に野伏岳の稜線や昨日の大日岳のピークが見える。何回も立ちどまり眺めてはシャッターを切る。頂上には、20~30 人の登山者が広い山頂でグループ毎に食事をしたり記念写真を撮ったりしている。風はなく気温も高い。まさにピクニックのような風景だ。昨日のガスの中での無念な登山を帳消しにした荒島岳登山でした。



頂上に続く稜線



荒島岳頂上